vinetur

シチリア沖でローマ時代の沈没船を発見、最大1,500点のワイン用アンフォラがほぼ完全な状態で残る

保存状態の良い積み荷から、2,000年以上前にローマのワインが北アフリカへ運ばれた経路が明らかになる可能性がある

2026年11月9日（月）



ワイン用アンフォラを大量に積んだローマ時代の沈没船が、シチリア島南西沖で発見された。考古学者によると、この発見はローマ共和政末期の地中海交易に関する理解を深めるとともに、2,000年以上前にワインがどのように梱包され、輸送されていたのかを知る貴重な手がかりとなる。

シチリア当局は8月、島の南西岸にある漁業の町マザーラ・デル・ヴァッロ近くの遺跡を初期調査した後、発見を発表した。沈没船は沖合約3マイル、水深約150フィートの地点にある。考古学者によると、積み荷には素焼きのアンフォラが少なくとも500点、1,500点以上ある可能性もあり、その多くがほぼ完全な状態で、積み重ねられた配置のまま残っている。

この遺跡は6月、経験豊富なスピアフィッシャーのジャコモ・デ・モーラとイゴール・ビスリが、競技会に先立って海底を調べていた際に偶然発見した。デ・モーラによると、ソナーにマザーラ・

デル・ヴァッロから約3〜4マイル沖に、2人が探していた岩礁とは異なる、異例に大きな構造物が映っていた。

元フリーダイビング選手権王者のデ・モーラは、マスクとカメラを携えて海底に潜り、長さ約70フィート、幅約20フィートにわたり、砂から約8フィートの高さに広がるアンフォラ群を見つけたと説明した。その後、テクニカルダイバーやシチリア当局につながる関係者に情報を伝え、正式な考古学調査が始まった。

研究者によると、この沈没船の重要性は、地中海で発見されたローマ船の中で最大だからではなく、シチリア周辺の他の発見例と比べた規模と、保存状態の良さにある。シチリア文化遺産局および海洋監督局の海洋考古学者ロベルト・ラ・ロッカは、シチリアの海域で発見された沈没船のうち、寸法で見て最大級の一つだと述べた。

船の木造船体はすでに分解してしまったが、海底の下にその一部が埋まっている可能性があると考古学者はみている。一方、積み荷は極めて良好な状態で残っているようだ。ラ・ロッカによると、アンフォラの配置から、この遺跡が略奪されていないことがうかがえる。比較的浅い水深で岸にも近い古代の沈没船としては、珍しいケースだ。

この点が重要なのは、シチリア周辺の多くの水中考古遺跡が略奪によって損なわれてきたためだ。7月に沈没船の初の3D測量を行った独立系水中探査者のファビオ・ポルテッラは、遺物を狙う者たちが、一般的なレクリエーションダイビングの限界を超える深さにも長年到達してきたと語った。シチリアのダイバーが深海の遺跡から遺物を引き揚げていたのは、1960年代にさかのぼるという。

古代のアンフォラは持ち運びやすく、市場で強い人気があるため、価値の高い標的だった。こうした陶製容器には約6ガロンのワインが入ることが多く、空の状態でも約50ポンドの重さがあった。考古学者によると、沈没船は時間をかけて、アンフォラが一度に1、2点ずつ持ち去られることがある。また、漁網によって容器が壊れ、遺物が海底に散乱するなど、さらなる破壊が起きることも多い。

研究者は、複数の要因がマザーラ・デル・ヴァッロの遺跡を守った可能性があると考えている。ポルテッラによると、沈没船の周囲を岩が囲んでおり、底引き網から遺跡を守ったとみられる。ソナー上でも、調査に値する積み荷のある場所ではなく、大きな岩に見えた可能性がある。さらに、地元には漁業の伝統が根付いている一方、シラクーサ、カターニア、パレルモなどに比べるとダイビング文化は弱いという。水が濁りやすく、視界が悪いことも一因だ。

船が沈んだときの状況も、保存に役立ったと考古学者はみている。ラ・ロッカによると、船は嵐の中で急速に沈み、乗組員はすべての錨を下ろすことができなかった可能性が高い。鉛製の錨2つの残骸は、今も沈没船とともに確認されている。急速な沈没によって船体が直立したまま海底に達し、積み荷が散乱せず、整然と積まれた状態を保った可能性がある。

この沈没船は、より広い歴史的意義を持つ可能性もある。スタンフォード大学の考古学者ジャスティン・ライドワンガーによると、アンフォラの大半は、紀元前2世紀から紀元前1世紀に使われた一般的な形式であるドレッセル1A型とみられる。この型のアンフォラは、スペイン、フランス、イタリア本土の大部分に近い沈没船でよく見つかるが、シチリア島南西沖での発見は、船の航路や目的地

について疑問を投げかけている。

沈没船の位置から、考古学者は船が北アフリカへ向かっていた可能性があると考えている。船の推定年代が確認されれば、ローマの北アフリカ向けワイン輸出は、多くの研究者が考えていたより早い時期に拡大していたことを示唆する可能性があると、ライドワンガーは述べた。これは、ローマの商業ネットワークが急速に広がり、イタリアの貴族的な大土地所有者が農業や交易への投資を拡大していた時期と整合する。

ライドワンガーによると、積み荷はおそらくイタリア中部から運ばれたが、研究者はこれを確定事項とはみなしていない。アンフォラの配置から、積み荷が単一の大規模農園から出荷されたのか、それとも複数の生産者が輸送のために商品をまとめたのかを判断できる可能性がある。容器に封印や銘文が残っていれば、より正確な証拠となりうるが、そうした発見はまれだと考古学者は指摘する。

可能性は低いものの、残留物や刻印から別の産地が示されることもありうる。コルシカ島の水中考古学を統括するフランス文化省の海洋考古学者フランカ・チベッキーニは、ワインがシチリア産だったことを示す証拠が見つかれば、大きな進展になると述べた。この時代のシチリアのワイン生産について、研究者の知見は限られているためだ。

中身は失われたか劣化しているが、専門家によると、容器から古代のワインについて多くのことが分かる可能性がある。ウンブリア州のルンガロッティ財団に所属する考古学者ロレンツォ・レプリによると、ローマ時代のワインは通常、十分に熟したブドウから造られ、アンフォラから直接飲むには濃厚すぎるか、アルコール度数が高すぎることが多かった。ローマ人は一般に水で薄め、果物や香辛料、蜂蜜で風味を加えることもあった。アンフォラの内側は松脂で封じられるのが一般的で、これも味に影響した。

当局は、容器の内部に残留物が残っている可能性も含め、限られた数のアンフォラを引き揚げて調査する計画だ。ただし、沈没船全体を引き揚げる予定はない。考古学的な文脈を保ち、認可を受けた事業者による監督付きダイビングを将来実施できるよう、調査後も遺跡の大部分は現状のまま残される見通しだ。

この方針は、地中海の一部地域で採用されている、すべての水中遺跡を物理的に引き揚げて保管するのは不可能だという考えに基づく。ラ・ロッカによると、重要な発見を公表し、管理された文化的観光資源にすることで、地域社会に保存を違法な引き揚げより重視する経済的な理由を与え、保護を強化できる。

考古学者は現在もマザーラ・デル・ヴァッロの沈没船の調査と分析を続けている。この遺跡は、船が沈んだ当時に近い配置のまま古代のワイン積み荷が残る、シチリアでも最も明瞭な事例の一つになる可能性があるという。